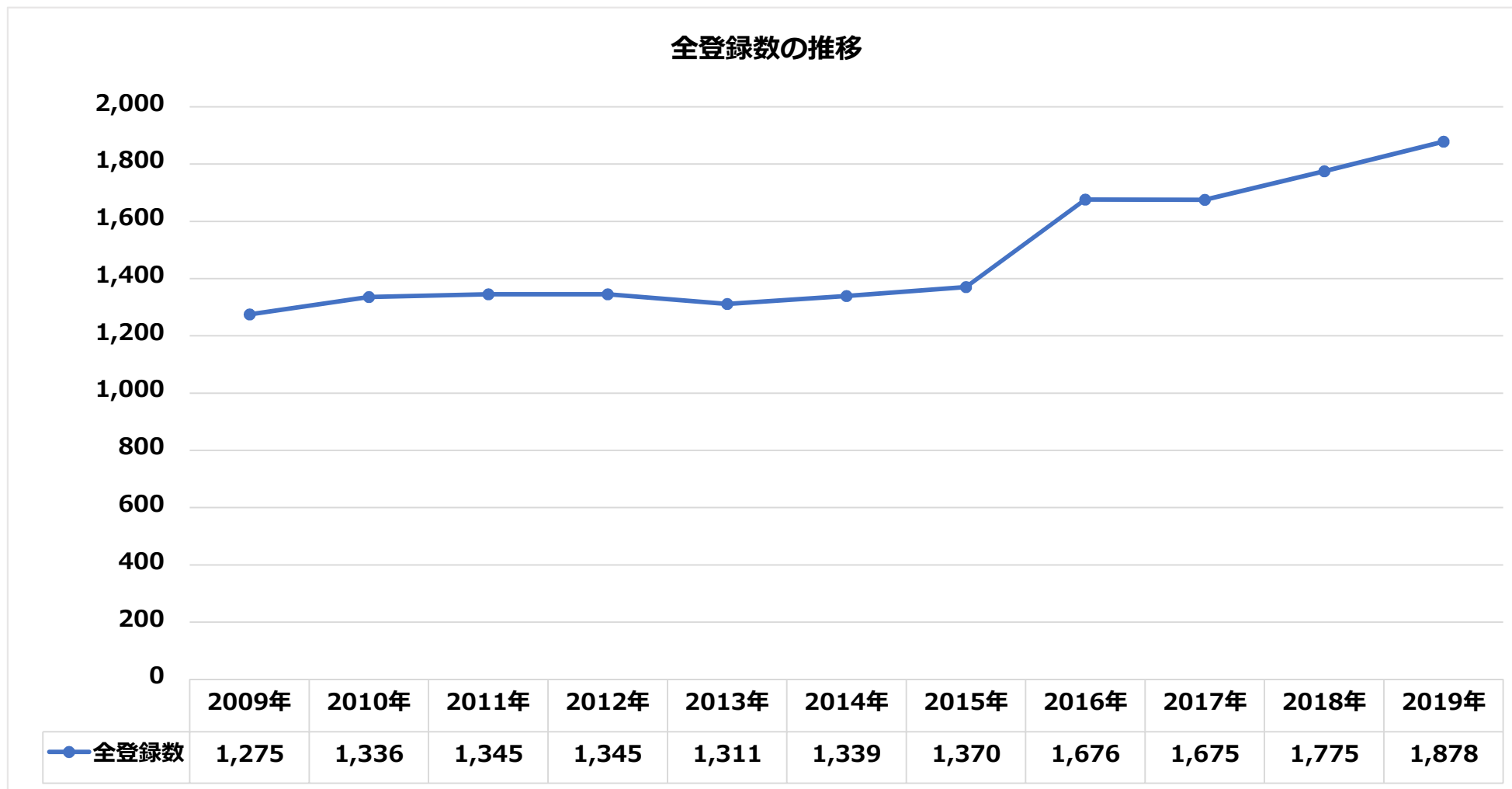


# 全登録数の推移



全登録数とは、当院をはじめ受診した「がん」の件数です（セカンドオピニオン等含む）。

2016年は、4月に泌尿器科の通常診療を再開し、「前立腺がん」「膀胱がん」「腎・尿管がん」等の受け入れが可能となり、約200件の登録増、また、他の診療科においても診療体制の充実を図り、計300件の登録増となりました。

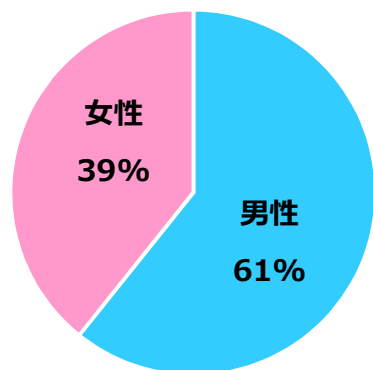
2017年は、「乳がん」の手術の診療制限はありましたが、「血液内科」の充実を図り、2016年と同数となりました。

2018年は、「乳がん」の手術の再開等により約100件の登録増となりました。

# 2019年症例 性別・年齢階級別 集計登録数

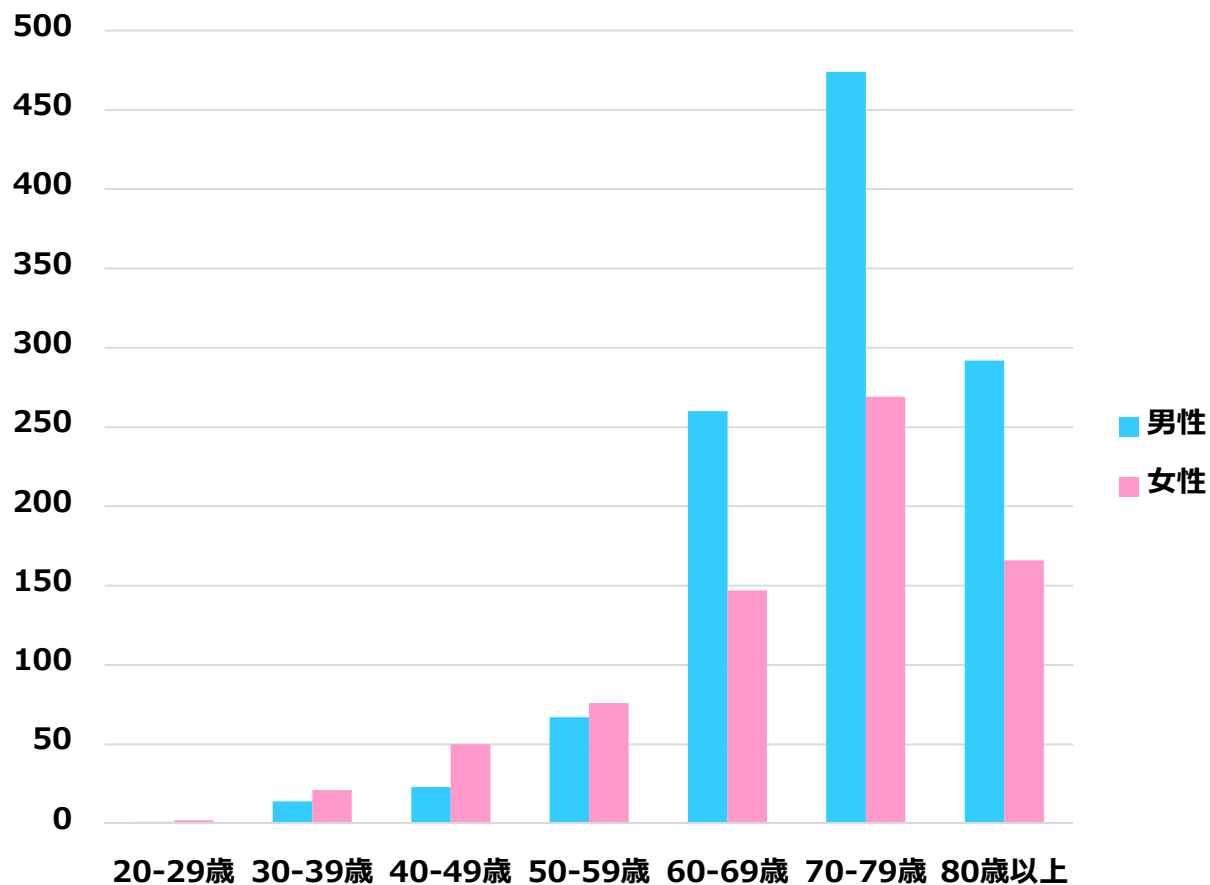
(セカンドオピニオン等を除く)

### 2019年症例 性別 登録割合



年度ごとの診療体制によって若干の変動はありますが、毎年ほぼ6対4で男性の登録数が多いです。

### 2019年症例 性別・年齢階級別 集計登録数



平均年齢は、全体で71.5歳、男性72.8歳、女性69.5歳です。

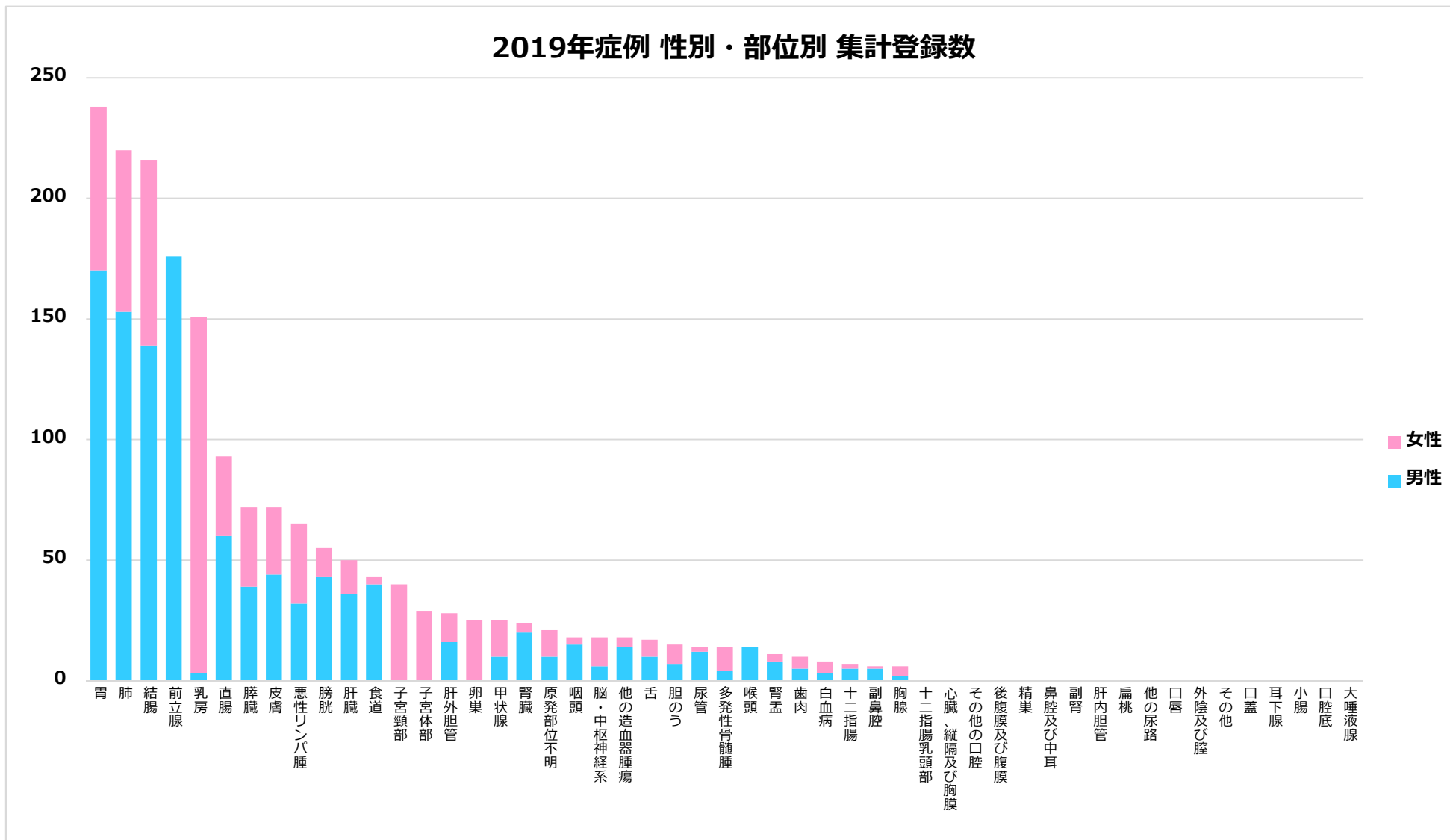
全体の集計登録数は男性が多いですが、若い年齢層では女性が男性を上回っています。

がんの発症年齢は、がんの種類によっても大きく異なり、乳がんや子宮頸がんなど女性特有のがんは、比較的若いうちに発症することが多いです。

近年の高齢化によって、80歳以上の登録数が増加傾向にあります。

# 2019年症例 性別・部位別 集計登録数

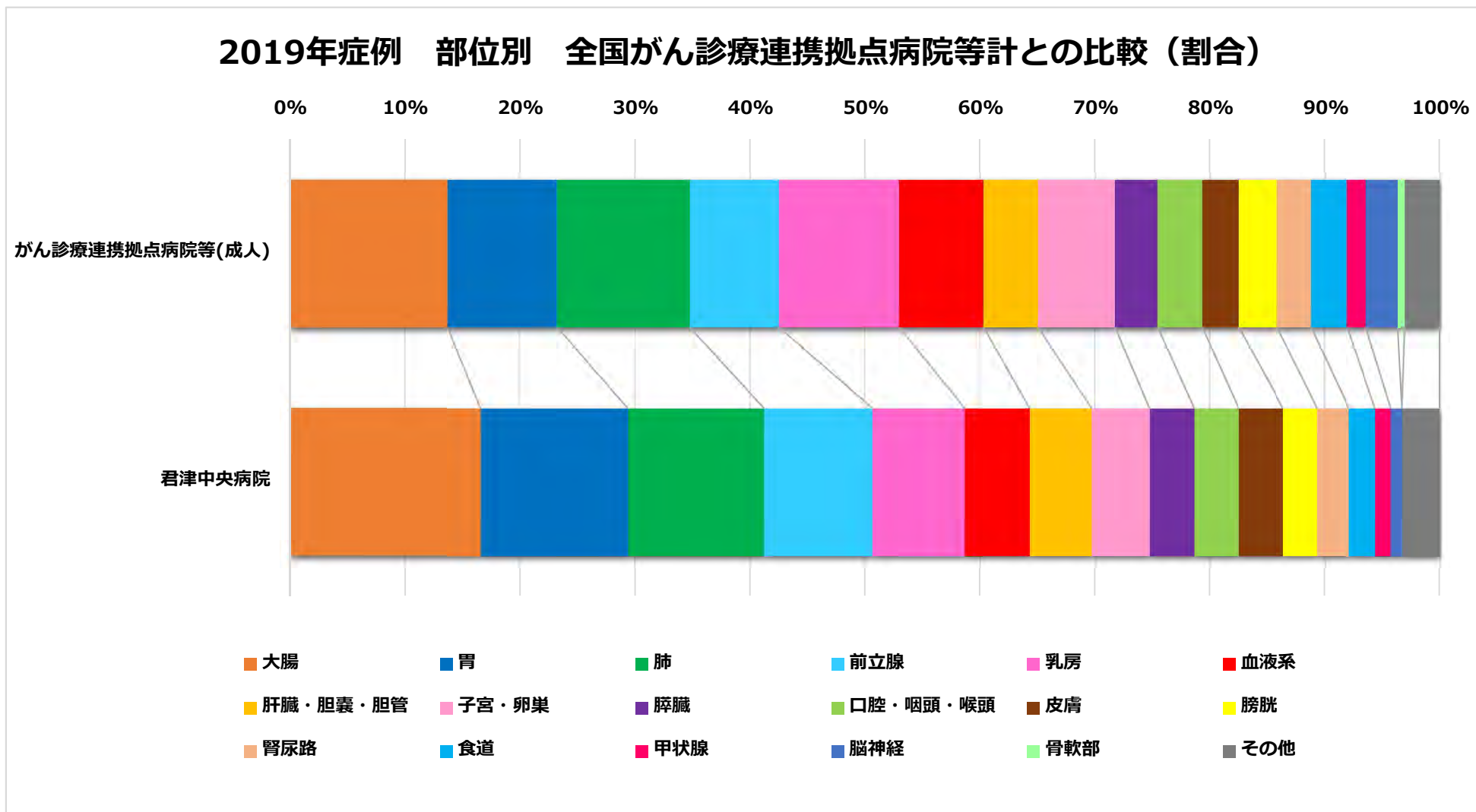
(セカンドオピニオン等を除く)



上記のグラフは、当院の部位別の集計登録数を示したものです。がんがあらゆる部位に発生すること、また、当院が「地域がん診療連携拠点病院」として多くの部位のがんの診療を行っていることを知っていただくために、全国集計で公表されている部位よりもより詳細な分類で表示しています。なお、登録数の少ない部位は、個人が特定できないように、グラフの値を非表示にしています。

# 2019年症例 部位別 全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）

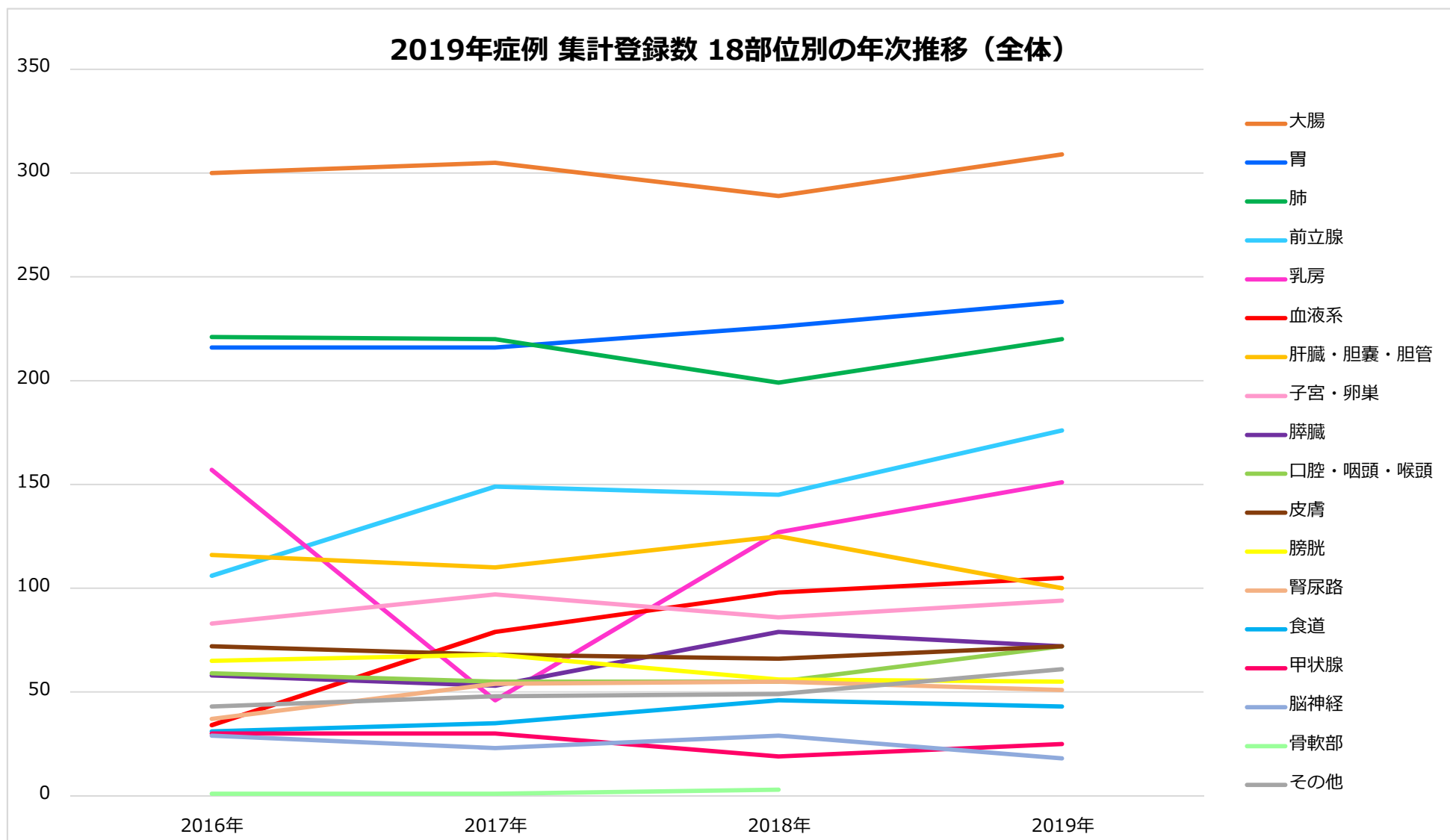
（セカンドオピニオン等を除く）



上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分け、当院と全国のがん診療連携拠点病院等の集計の登録割合を比較したものです。当院の割合は、胃、大腸、前立腺が高く、乳房、子宮・卵巣、血液系（悪性リンパ腫・白血病・多発性骨髄腫等）、脳神経が低いものの、全国のがん診療連携拠点病院等の集計の割合とほぼ一致しています。これは、当院が、「地域がん診療連携拠点病院」として、特定の部位に偏ることなく、あらゆる部位のがんに対する診療体制を整えていることを示しています。

# 2019年症例 集計登録数 18部位別の年次推移（全体）

（セカンドオピニオン等を除く）

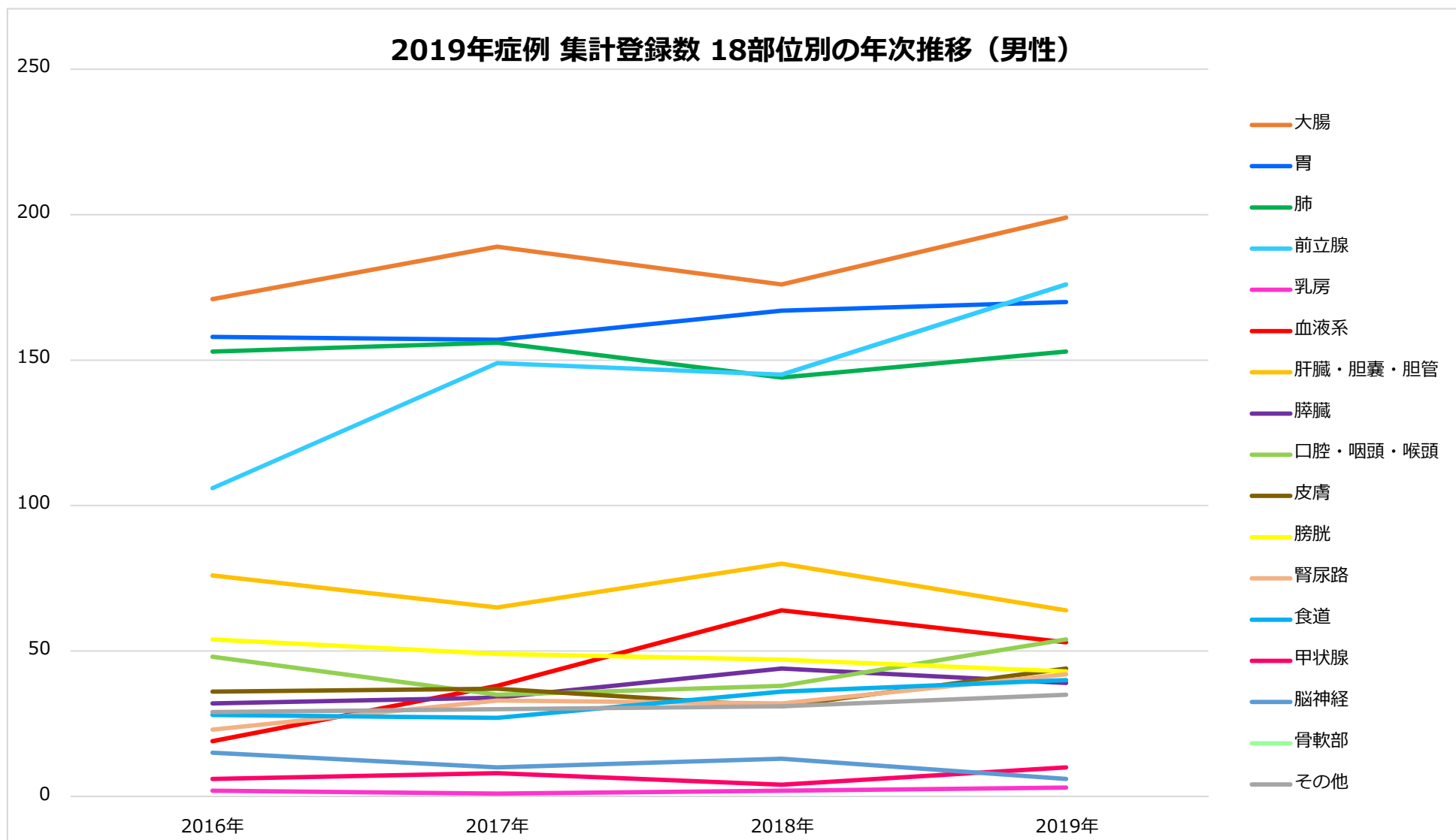


上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の集計登録数の年次推移を示したものです。

2016年に泌尿器科、2017年に血液内科の診療体制の充実を図り、前立腺と血液系（悪性リンパ腫・白血病・多発性骨髄腫等）の集計登録数が増えています。

# 2019年症例 集計登録数 18部位別の年次推移（男性）

（セカンドオピニオン等を除く）



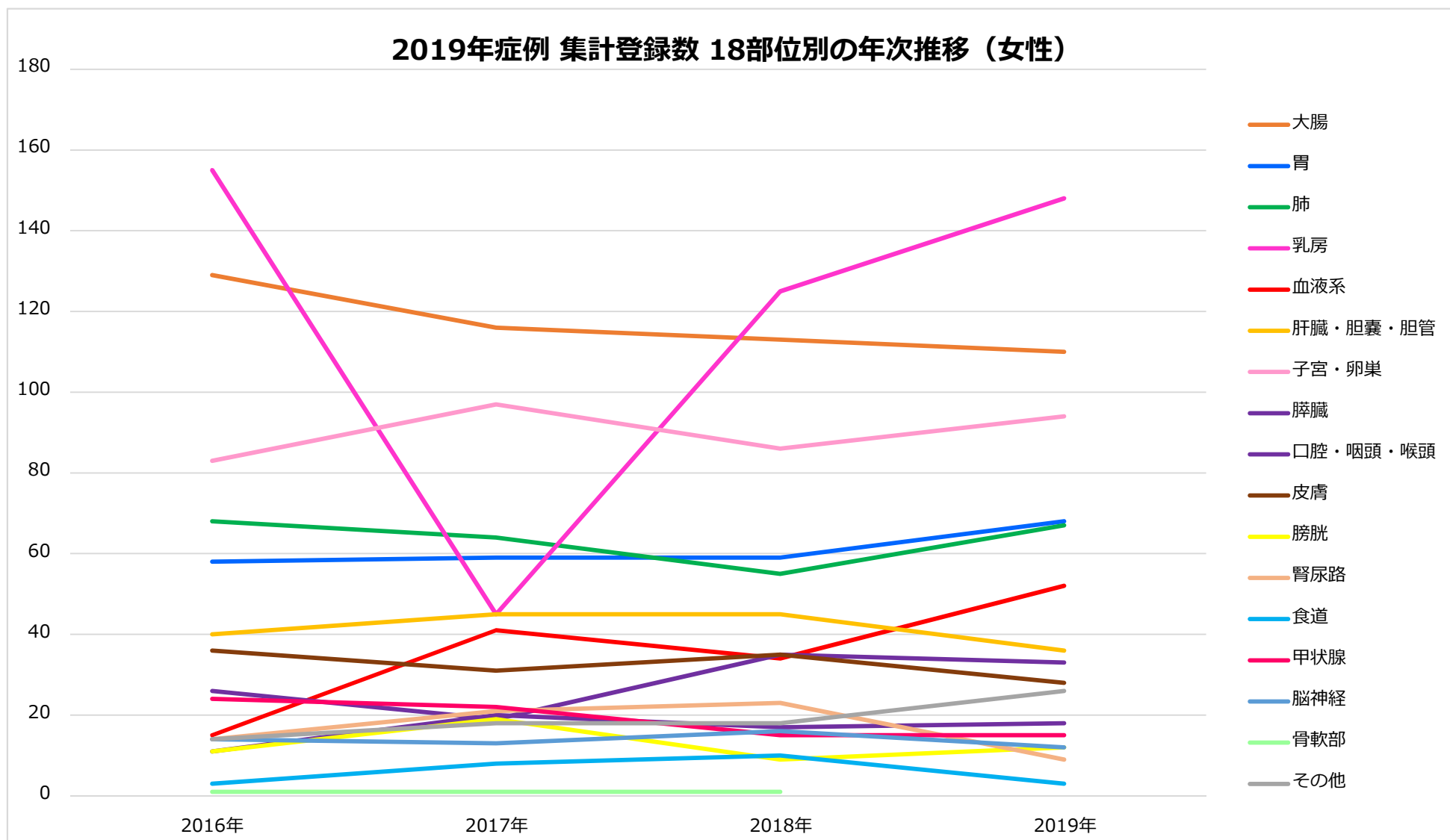
上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の男性集計登録数の年次推移を示したものです。

2017年全国がん登録集計結果によると、男性において罹患率が高いのは、大腸、胃、前立腺、肺、肝・胆管、の順です。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、上位5部位のがんのみならず、全国的に罹患率の高いがんの診療体制を整えています。

# 2019年症例 集計登録数 18部位別の年次推移（女性）

（セカンドオピニオン等を除く）



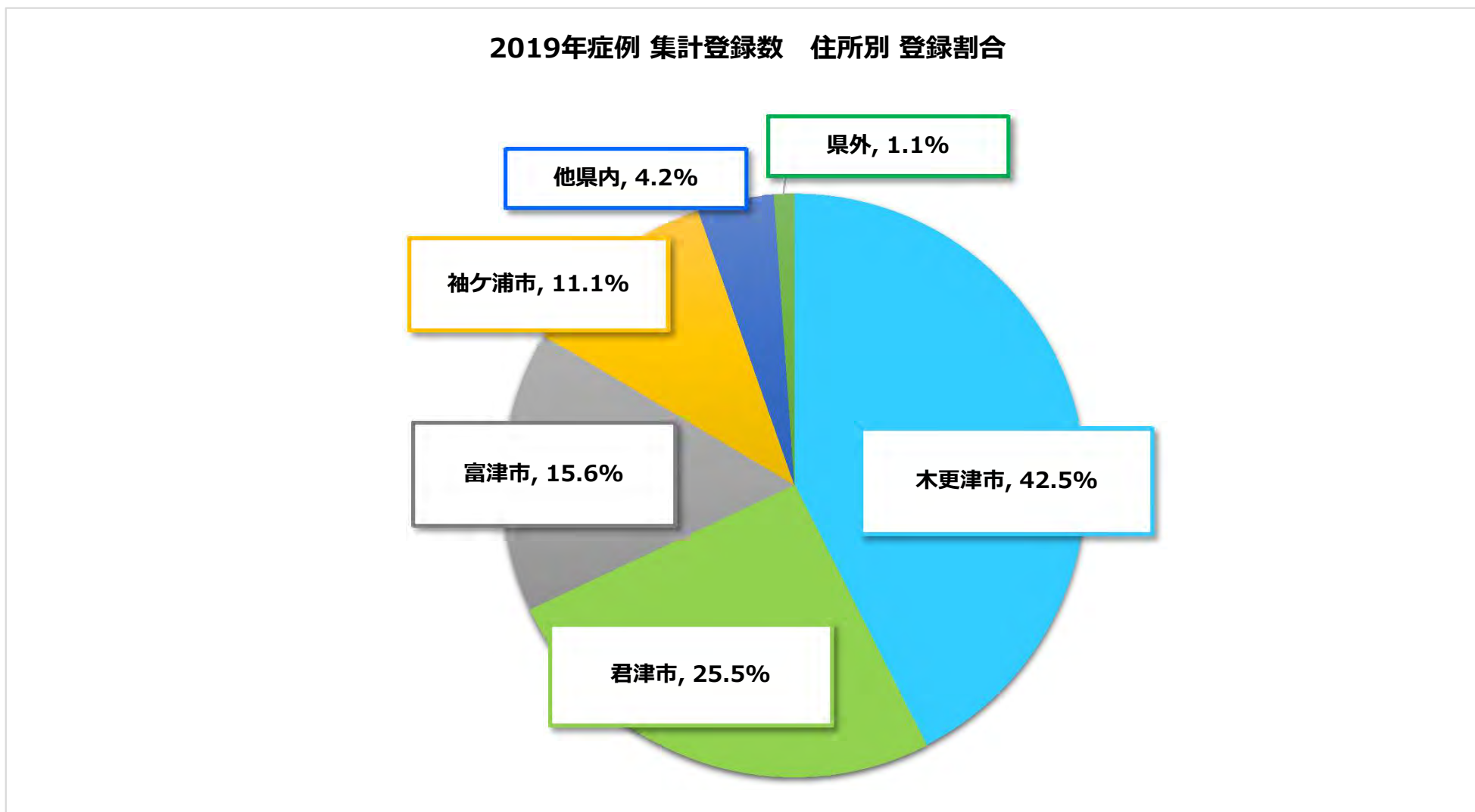
上記のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分けた場合の当院の女性集計登録数の年次推移を示したものです。

2017年全国がん登録集計結果によると、女性において罹患率が高いのは、乳房、大腸、子宮、肺、胃の順です。

当院は「地域がん診療連携拠点病院」として、上位5部位のがんのみならず、全国的に罹患率の高いがんの診療体制を整えています。

## 2019年症例 集計登録数 住所別 登録割合

(セカンドオピニオン等を除く)



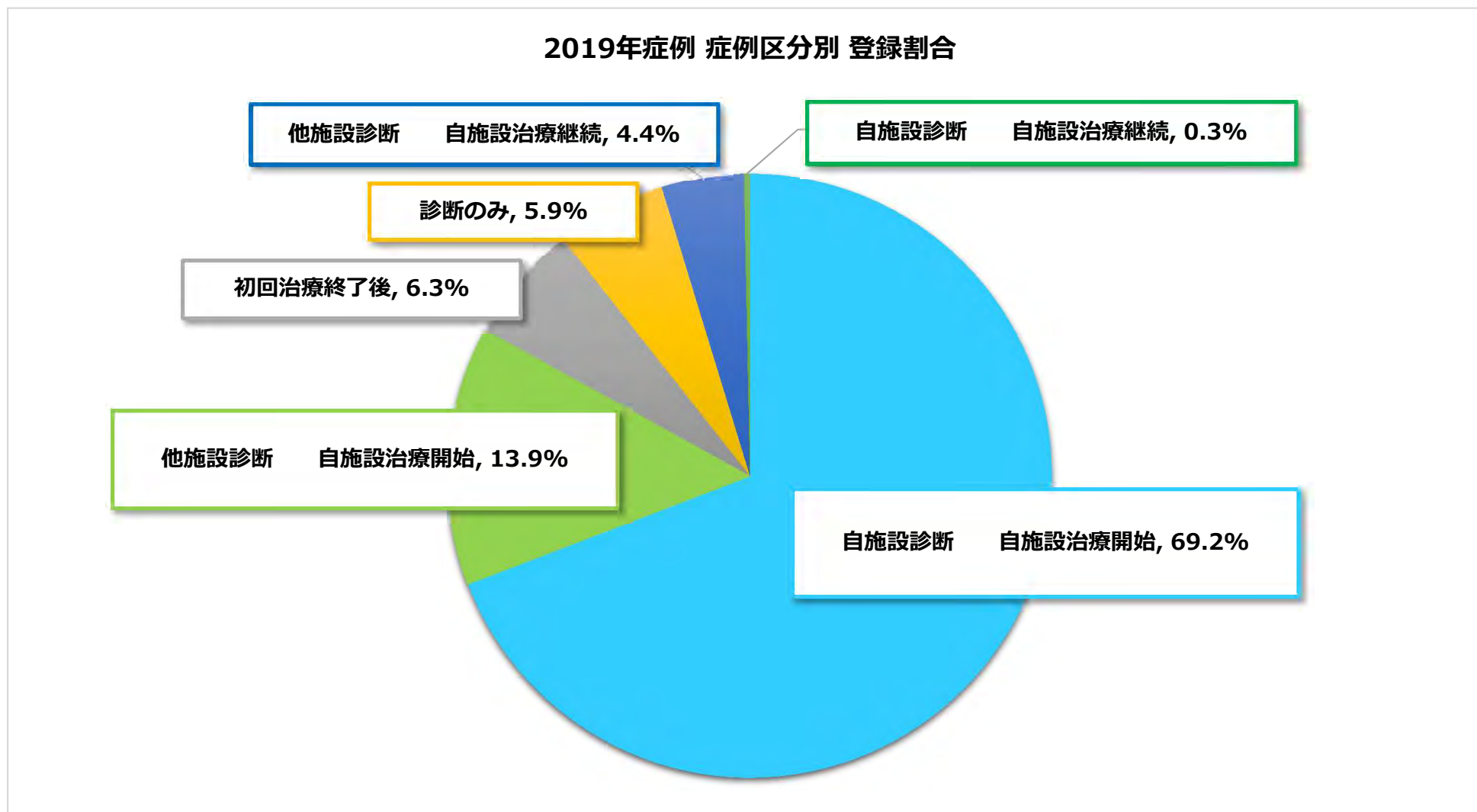
君津保健医療圏（木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市）にお住まいの方が集計登録数の約95%を占めています。

当院は、国のがん医療の均てん化（全国どこにいても標準的な専門医療が受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ること）の理念の基に、地域がん診療連携拠点病院として、地域のみなさまが安心して質の高い専門医療が受けられるがん診療の体制づくりに努めています。

ちなみに、2017年は君津保健医療圏でがんと診断された方の約半数が当院で治療を開始しています。（全国がん登録データより算出）



## 2019年症例 症例区分別 登録割合 (セカンドオピニオン等を除く)

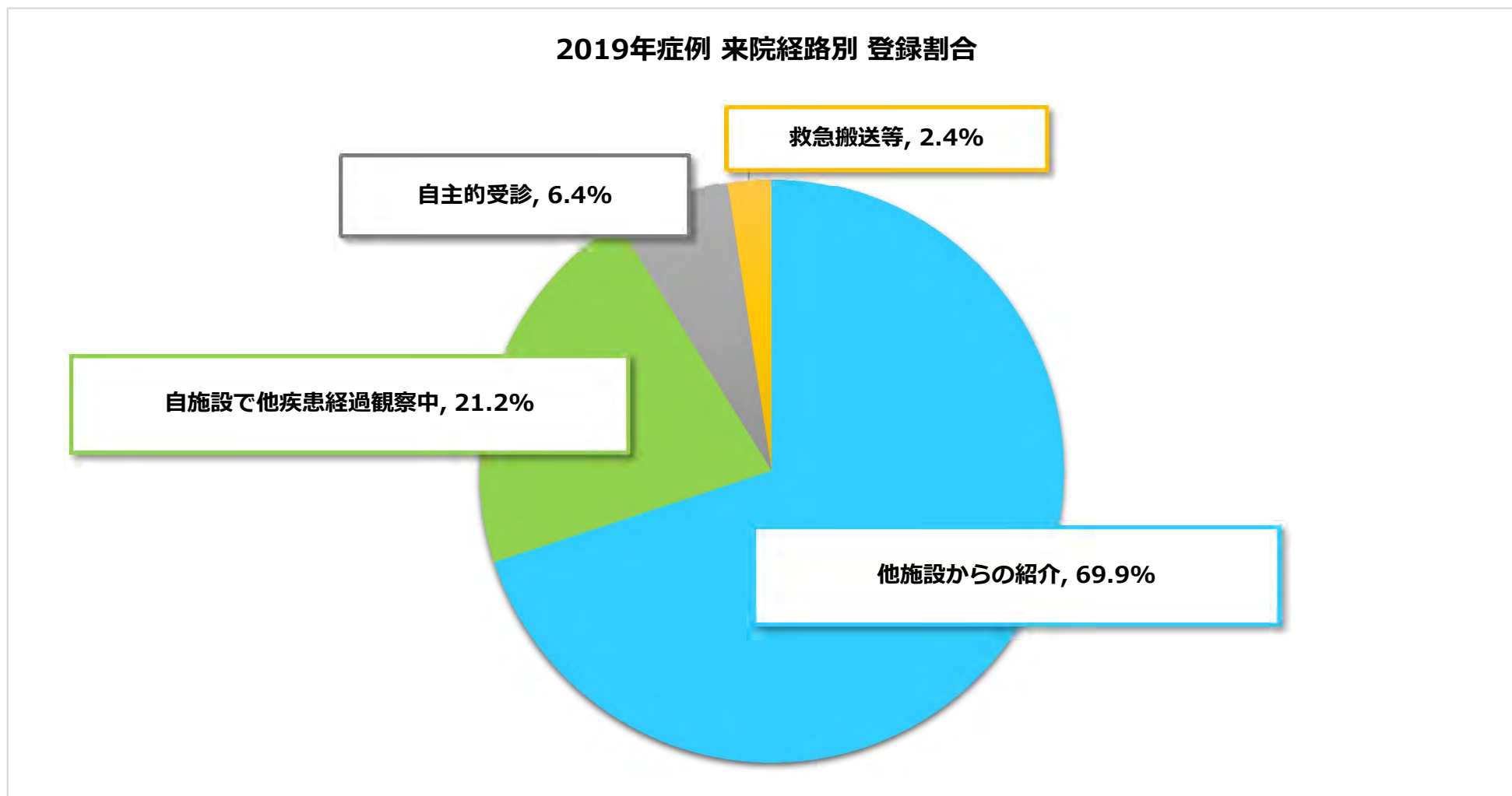


「症例区分」とは、がんの診断および初回の治療の過程で、当院がどのように関わったかを判断するための項目です。

当院で治療（経過観察含む）を開始した症例は、集計登録数の83.1%であり、その中でも診断から治療まで継続して受診している症例が69.2%と多数を占めています。診断のみの症例は5.9%、初回治療終了後の再発・緩和医療等の目的で受診する症例が6.3%、他施設で治療を開始後に当院で治療を継続している症例（乳がん術後の放射線療法等）が4.4%です。

当院は、「がん診療連携拠点病院」として、診断、治療、そして緩和医療まで、あらゆる病期のがん診療に対応しています。

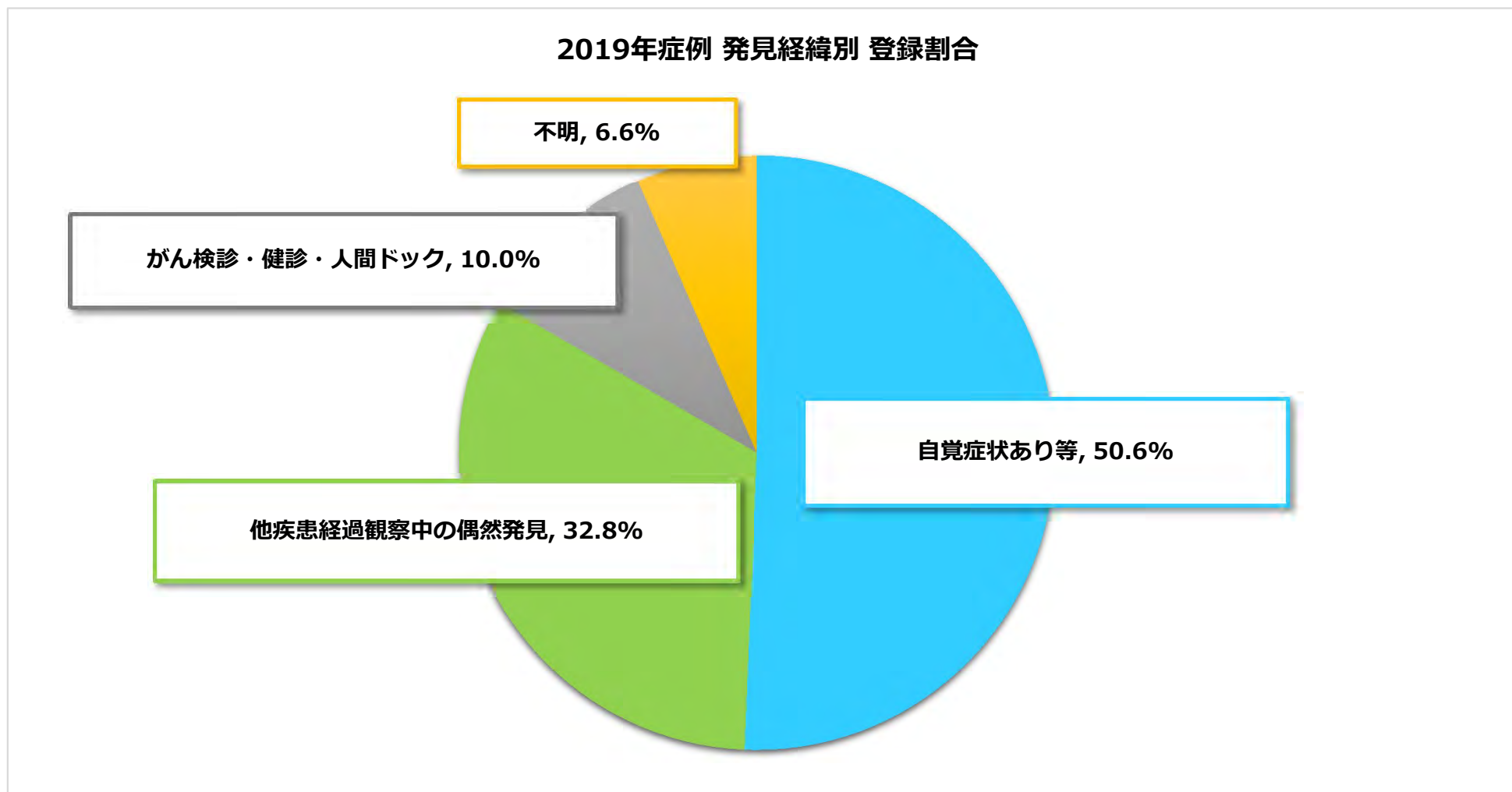
## 2019年症例 来院経路別 登録割合 (セカンドオピニオン等を除く)



「来院経路」とは、患者さまがどのような経路によって当院を受診したのかを把握する項目です。

「他施設からの紹介」が全体の69.9%を占めており、「地域がん診療連携拠点病院」としてかかりつけ医や検診機関等から多くの患者さまの紹介をいただいています。「自施設で他疾患経過観察中」とは、当院で他疾患の診断や治療中にがんが発見された症例です。がんの疑いがあり当院を受診したが、精査によってがんが否定され、その後、当院でフォローアップ中にがんが発見された症例も含まれます。「自主的受診」とは、紹介状を持たずに自主的に当院を選択して受診した症例です。

## 2019年症例 発見経緯別 登録割合 (セカンドオピニオン等を除く)



「発見経緯」とは、当院を受診した患者さまのがんが診断される発端となった状況を把握する項目です。

「自覚症状による発見」が約半数を占め、「他疾患経過観察中の偶然発見」や「がん検診・健康診断・人間ドック」等の自覚症状が出る前にがんが発見された症例は、42.8%です。がんが0期・I期で発見される割合は、「他疾患経過観察中の偶然発見」や「がん検診・健康診断・人間ドック」が約6割に対して、「自覚症状あり」の場合は約3割です。0期・I期の多くが外科的・内視鏡的に治療が完結することから、がんの完治には自覚症状出現前の早期発見が重要です。